

大地震 特養と住民連携

町田 避難や救護の訓練



大地震の発生時に特別養
護老人ホームと地域住民が

連携し、住民の避難や要援
護者の救護を行うための訓

参加者 措置を施す 車いすに 乗せ 負傷した人

練がこのほど、町田市能ヶ谷の特別養護老人ホーム「悠々園」で行われた。職員23人と自治会員ら計47人が訓練に参加し、見学に訪れた福祉施設関係者も熱心にメモをとっていた。

訓練は、22日午前9時、多摩地区北部を震源地としてマグニチュード7・3の地震が発生し、ライフラインが切断された状況を想定して行われた。施設内に地震発生を知らせるアナウンスが流れると、職員らは一階事務所に災害対策本部を

設置。無線で連絡を取り合
って建物被害状況や利用者
の安否を確認すると同時
に、避難してきた住民を空
き部屋に受け入れた。

一方、住民は施設の車い
すを借りて自宅で負傷した
人を運んだり、災害備蓄品
の保管場所を確認し、自治
会役員を中心に仮設トイレ
の組み立てや、炊き出しを
行った。

同施設を運営する社会福
祉法人「悠々会」の陶山慎
治理事長は「施設を避難先
の一つとして意識してもら

い、災害時に住民自身が選
べるのが大切。今後は、
地域の避難場所である鶴川
第二小との役割分担を明確
にしていくのが課題」と語
った。